

学体連会報

発 行 所

発行日・昭和 54 年 1 月 20 日
東京都渋谷区代々木神園 3 番 1 号
オリンピック記念青少年総合センター内
財団法人 日本学校体育研究連合会
編集責任者 理事長 重 田 一

就 任 あ い さ つ

筑波大学 大 石 三四郎

このたび、日本学校体育研究連合会の会長に就任いたしました。

本会は我国学校体育振興の中核たりうる組織を持っております。しかし、その能力においては必ずしも十分な力を持っているとは限りません。私は就任にあたり、まず、その伝統と使命の重大さを痛感いたしました。現在、私は、全国大学体育連合の専務理事をしております。幸にも、大学間におきましては、漸く、その体を成してきたようであります。もちろん、今後、更に、大いに努力しなければならないのですが、これからは、小・中・高・大、と、いうように学校組織を一貫した指導原理が必要な時であると、考えていたところでもありました。そこで、私は、非才を顧ず、大きな希望を持って、我国の体育振興をはかるのに、ちょうどよい機会であると確信して、会長就任をお受けした次第であります。

いうまでもなく、多くの先輩の築かれた組織でもありますので、その長所は十分に生かすとともに、私なりの創意工夫を加えまして、十分なる機能を発揮したいと思います。

会員各位におかれましても、この組織に入っていることの利益をお考えになるとともに、更に、お力をこの組織にお借し下さって相互援助と、社会への奉仕という、一つの使命感を持って、御参加下さることを、お願いいたします。

いわば、この組織が太陽のようなエネルギーを持つためには、会員各位の爆発する活力を結集する以外はないと信じています。何卒、何分の御援助と御教示を下さいますよう、心からお願いする次第です。

簡単ではありますが、これを持ちまして、会長就任の挨拶にかえさせていただきますと存じます。

第17回全国学体研大会事業を終えて

「体力向上の在り方を求めて」をテーマに開催した第17回全国学体研究会は予想以上の成果を収め、無事終了することができた。これも、文部省、日本学体連をはじめ講師、役員、参加者あがての協力、支援があったからこそと思われる。

この大事業も準備過程においては必ずしも順調な道程ばかりではなかった。研究や大会開催への意識や取り組み姿勢の相違、手薄な事務局構成の中での路線づくり等々幾度か難渋の局面に立たされたこともあった。しかし、大会が近づくにつれて関係者の気運が盛りあがり、ひたむきな協力体制によって諸準備は急ピッチで進展した。

今日、学校体育の負う役割はますます重く、これが達成のため体育指導者は心と力を合わせて教育実践に尽さなければならない。このことを全国の同志と共に目のあたりに実感として感知し得たこと、これこそ第17回全国研究大会が我々に残した最大の教訓であった。

各位の協力のもと晴れて大役を果たした群馬県では、本研究大会の真の成果は一つにかかって各研究会の今後の取り組み方の如何にあることを肝に銘じ、新たな第一歩を着実に踏み出そうとしていることを卒直に表明するものである。

大会の準備運営にあたり多大な御支援御協力を賜った関係各位に対し重ねて感謝申しあげ、学校体育の躍進と学体連の充実発展を心から祈念し所感といたします。

昭和53年12月20日

第17回全国学体研大会

群馬県実行委員会事務局（文責 桜井）

昭和54年度第18回全国
学校体育研究大会予告

標記大会の開催にあたり、候補としていくつかの都道府県に交渉した結果、それぞれの事情のためお引受け願えず、最終的に東京都において開催することになりました。

大会要項は決定次第発表されますが、とりあえず日程などお知らせいたします。

記

1. 開催日程 昭和54年11月21日(水)～22日(木)
2. 大会会場 立正佼成会「普門館」
(東京都杉並区和田2-6)

全国学校体育研究大会における 「パネル討議」を司会して

理事長 重 田 一

「パネル討議 (panel discussion) とは、討議問題について、通例数人の対立意見の代表者が、聴衆の前で討議をかわすもの、シンポジウム (symposium) とは、2人またはそれ以上の人が、同一問題の異なった面をあらわすよう講演し、おのおの意見を述べ、聴衆または司会者が質問し、講演者がこれに答える討論の一形式と広辞苑に出ています。」と言ったら、前橋県民会館を埋めた聴衆は大笑い。感度良好。両方を混ぜ、聴衆である先生方からも活発な質問・意見を具体的に前向きに出して戴くことで進めて行くことにした。テーマは「新しい学校体育とその課題」最初、1人8分の持ち時間、補足の時間は特にとらず、講師の答弁や意見開陳の処で補うものなら補うという約束をしておいた。先ず川口一夫講師 (全国中体連理事長) は、①総則第3の体育の推進、②調和のとれた人間形成、③部活動の位置づけと問題点の整理を訴え、中村 (旧姓河西) 昌枝講師 (東京オリンピック女子バレーボールチーム主将) は、①脚腰を鍛えるために体育の宿題を出すわが子の小学校、②母が子供と毎日一緒にこの宿題をやる、③厳しくやさしく育てたいと、説得力あるお話。3人目の梅沢次郎講師 (群馬県青少年保護育成審議会会長) は、心の拠り所を失った青少年を、学校体育における体力作りを通して、日本の発展に参加できるよう育てて欲しいと要望された。4番目は小野三嗣講師 (東京学芸大学教授) は、兎跳び禁止や脊椎分離の発生率などの例を引いて、児童・生徒ひとりひとりの実態に適合した指導をしなければ、伸びる芽を傷つけることになるかと警告され、最後の大木昭一郎講師 (文部省体育局体育官) は、子供の可能性、適時性を洞察した指導法を生み出すことが、運動の特性に迫ることになる。興味・関心を充たす指導法、「できた」の喜び、「勝った」の嬉しさを与える指導法を創り出して欲しいと激励された。

これら5人の講師の発言に対し、次から次へと真剣な意見、適切な質問、明快な答弁がめまぐるしく交錯。緊迫すると共にユーモラスな笑いもおこり、誠に短く感じられた1時間50分であった。これを企画された群馬県の上田敬次会長や中山尚郎体育課長の、破顔一笑を見て、よかったとほてった顔を拭いたのである。(大会委員長)

以 上

昭和53年度研究助成募集要項

1. 目 的 学校体育に関する研究調査ならびに学校における体育活動および体育研究活動に必要な援助を行い、もって学校体育の発展に寄与することを目的とする。
2. 対 象 学体連加盟の都道府県小・中・高等学校およびその研究グループ。
3. 助成内容
 - (1) 研究学校助成(329万円、47件)
保健体育の指導または経営等に関する学校ぐるみの研究に対し、1件7万円、47件まで。
 - (2) 研究調査助成(30万円、10件まで)
保健体育の指導または経営等に関するグループの研究に対し、1件3万円、10件まで。
 - (3) 全国大会研究調査助成〔既に決定済みである。〕
 - ㊦ 群馬大会(100万円、18件)
小 学 校 6
中 学 校 6 } 18分科会の助成にあてる。
高等学校 6
 - ㊧ 東京大会(50万円)
54年度全国大会研究発表校の研究調査費に配分する。
4. 申し込み
 - (1) 様 式 所定の様式による。但し、学校研究助成申込書(学校を対象とするもの)と研究調査助成申込書(グループを対象とするもの)とがある。
 - (2) 宛 先 〒151 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
オリンピック記念青少年総合センター内
(財)日本学校体育研究連合会 TEL 03(465)3954
 - (3) 期 限 昭和54年1月20日
 - (4) 通 知 助成審査委員会による審査の結果を昭和54年2月10日(土)までに発表通知する。
5. 助成金の交付
助成金は昭和54年2月末日までに交付する。
6. 報告書提出
昭和54年3月20日(火)までに上記宛先の学体連事務局に提出する。
(封書に研究助成申込と表記する。)

【様式 1】

昭和53年度 学体連助成申込書（学校研究助成）

〒	学 校 所 在 地	学 校 名	電 話 番 号	
ふ り が な 校 長 氏 名	ふ り が な 体 育 主 任 氏 名	ふ り が な 研 究 主 任 氏 名	学 級 数	教 員 数 (専任のみ)
研 究 の 概 要 (B 4 版 400 字 詰 原 稿 用 紙) 3 枚 (1,200 字)				

【様式 2】

昭和53年度 学体連助成申込書（グループ研究助成）

グ ル ー プ の 名 称		ふ り が な グ ル ー プ 責 任 者 名 ・ 印		責 任 者 所 属 校 名 ・ 所 在 地 ・ 電 話 番 号	
				TEL	
グ ル ー プ 構 成 員	学 校 所 在 地 ・ 電 話 番 号	学 校 名	ふ り が な 校 長 名 ・ 印	ふ り が な 研 究 者 氏 名	
研 究 の 概 要 (B 4 版 400 字 詰 原 稿 用 紙) 3 枚 (1,200 字)					

学体連本部役員一覽

役 職	氏 名	勤 務 先
会 長	大 石 三 四 郎	筑波大学副会長
副 会 長	遠 山 喜 一 郎	東京女子体育大学教授
同	鈴 木 正 三	学習院大学教授
同	酒 井 一 九	杉並区立阿佐ヶ谷中学校長
同	岩 崎 正 春	港区立麻布小学校長
理 事 長	重 田 一	東京都立富士高等学校長
常務理事	坂井田 逸 治	専修大学教授
同	川 口 一 夫	渋谷区立代々木中学校長
同	入 倉 富 夫	東京都立清瀬東高等学校長
同	西 田 猛 夫	渋谷区立中幡小学校長

地 区 選 出 理 事 一 覽

地 区	氏 名	勤 務 先
北 海 道 東北地区	金 田 一 芳 美	岩手大学教育学部教授
	海 鋒 修	宮城教育大学教授
関 東 ・ 甲信地区	植 竹 幸 恵	大田原市立大田原中学校長
	鈴 木 正 三	学習院大学教授
	重 田 一	都立富士高等学校長
	入 倉 富 夫	都立清瀬東高等学校長
	奈良沢 芳 雄	神奈川県教育庁体育課副主幹
東 海 ・ 北陸地区	竹 田 昌 平	静岡県立清水西高等学校長
	今 井 政 夫	新潟県立西高等学校長
近畿地区	藤 原 明	大阪府立城山高等学校長
	安 田 祐 治	京都市立本能小学校長
	槇 歳 雄	兵庫県立鳴屋高等学校長
	福 島 篤 二	和歌山市立河西中学校長

地 区	氏 名	勤 務 先
中国地区	椿 公 爾	鳥取県立由良育英高等学校長
四国地区	隅 川 清	高知大学教育学部教授
九州地区	和 田 喜久蔵	福岡市立梅林中学校長
	屋 部 和 則	沖縄県立北部工業高等学校長
	阿 部 謙 一	大分県立大分高等学校長

本会顧問委嘱について

多年にわたり本会の育成発展のため献身的努力をされ、多大のご功績を残された前会長今村嘉雄先生は、役員改選を契機に辞任を表明されましたが、後任決定までその職責を果され、後任として現大石三四郎先生をご推せんいただき、その就任をみるに至りました。

本会においては、昨年10月11日の常務理事会において、今村先生を顧問としてご委嘱いたすことを万場一致決定しました。

なお、同時に元NHK管理局長の鶴澤七郎先生も顧問としてご委嘱することとなり、新しい分野からのご指導を期待しております。

(本会寄附行為第24条による)

付 記

一部未決定の地区がありますので、評議員一覧は次回の会報に掲載する予定です。

特 報

財団法人日本教育研究連合会（理事長平塚益徳）においては、永年にわたる研究と実践の努力と功績に対し、それぞれ加盟団体の推せんを経て表彰してられました。

本連合会においても当初から候補者（個人又は団体）を推せんしており、本年度は下記3名の方々を推せんいたしましたところ、選衡の結果、去る昭和53年12月13日をもって表彰者として決定の通知をいただきました。表彰式は本年2月10日、科学技術館サイエンスホールにおける同連合会の第3回全国研究大会の席上で行なわれます。

ここに表彰者の栄誉をたたえお知らせします。

表 彰 者 名	所 属 団 体 名	研 究 ・ 実 践 テ ー マ
下 原 和 弥	熊本県小学校教育研究会	よろこんで実践する体育学習をめざして
東 良 一	// 中学校体育研究会	バスケットボールの指導過程における評価について
江 藤 恵 治	// 高等学校体育研究会	進んで実践する体育学習をめざして

〔備 考〕

学体連においては、この表彰候補の選定にあたり、前年度全国学校体育研究大会開催県から候補者をお願いすることにしました。したがって当初は滋賀県より、今回は熊本県より推せんを受けて学体連の候補者となりました。

（ 賛助会員のお便り ）

前略

この度は、学体連会報御送り下さいましてありがとうございました。

過ぎし日、昭和51年11月25日 第15回全国学校体育研究大会滋賀大会の席上、末席ながら表彰の栄を戴きましたこと、私の人生最初にして最後の栄誉と深く感謝しております。また52年より賛助会員にいただきましたこと重ねて厚くお礼申し上げます。第一線を退いた、私ですが県女子体連の副会長の重責のもとで来年54年度全国女子体育連盟主催の茨城大会を開催すべく目下努力して居ります。幸い健康ですので私立高校に再就職して若さを失わず、そしてあの滋賀大会を心にがんばっております。近況をつまらなくお知らせして賛助会費（3万円）を添えて送金いたします。末筆ですが日本学校体育研究連合会の御発展を心からお祈り申し上げます。

さようなら

近 藤 綾 子

学 体 連 様

◇ 昭和53年度賛助会員入会現況 ◇

(54.1.20 現在)

本会の目的に賛同して、その事業を賛助された本年度の会員は、次のとおり予期以上の多数にのびりました。

ここに改めて謝意を表し、ご報告いたします。

記

1. 特別賛助会員 (会費 10 万円 + 多額の寄附)
2 会社 1 団体 計 3 件
2. 普通賛助会員 (会費 1 万円 ~ 10 万円)
 - 1) 10 万円口 1 件
 - 2) 5 万円口 10 件 } 計 118 件
 - 3) 1 万円口 107 件
3. 個人賛助会員
 - 1) 終身賛助会員 (会費 3 万円) 16 名
 - 2) 年 " (" 3 千円) 17 名 > 計 33 名

事務局よりお願い

昨年 10 月 20 日付文書をもって、全国都道府県加盟団体代表者宛に、本年度加盟分担金納入方について依頼しました。

已に 6 割以上はご納入いただきましたが、未納の都道府県は至急お取計らいくださるよう重ねてお願いいたします。

記

1. 加盟分担金の基準
 - (1) 人口 600 万人以上の都道府県 3 万円
 - (2) " 300 ~ 600 万人以内の都道府県 2 万円
 - (3) " 300 万人以下の都道府県 1 万円
2. 納入方法 (銀行振込)
 - (1) 振込銀行 埼玉銀行五反田支店 (普通預金)
 - (2) 口座番号 1298
 - (3) 振込宛名

財団法人日本学校体育研究連合会
会長 大 石 三四郎

助成審査委員会委員名簿

(50 音順)

番号	委員名	勤務先	自宅住所 (電話番号)
1	入 倉 富 夫	都立清瀬東高等学校長	〒177 練馬区南大泉町840-3 (03-922-5682)
2	大 迫 典 男	東京都教育委員会体育課主任指導主事(学校体育係長)	〒177 練馬区東大泉町265 (03-922-0834)
3	奥 畑 さち子	共立女子高等学校教諭	〒168 杉並区宮前3-9-8 (03-333-1092)
4	加 室 一 臣	東京都立教育研究所 主任指導主事	〒187 小平市学園東町55-31 (0423-41-3566)
5	近 藤 昭 雄	麻布高等学校教諭	〒154 世田谷区駒沢2-21-11 (03-410-2552)
6	重 田 一	都立富士高等学校長	〒154 世田谷区野沢1-29-23 (03-421-8374)
7	鈴 木 英 久	都立志村高等学校長	〒180 武蔵野市吉祥寺南町4-21-12 (0422-43-2834)
8	鈴 木 正 三	学習院大学教授	〒171 豊島区目白1-2-8 学習院大舎宅 (03-983-3871)
9	田 丸 潔	大田区立南六郷中学校長	〒223 横浜市港北区東山田町1487 (045-591-5459)
10	西 田 猛 男	渋谷区立中幡小学校長	〒223 横浜市港北区下田町336 (044-61-5701)
11	前 川 峯 雄	中京大学教授	〒272 市川市真間3-7-4 (0473-22-5119)
12	松 本 千代栄	お茶の水女子大学教授	〒112 文京区大塚2-4-8の1108 (03-945-2809)

講談社版

高校保健ノート

監修●大塚正八郎(筑波大学教授)

B5判/口絵カラー32ページ/本文180ページ/450円



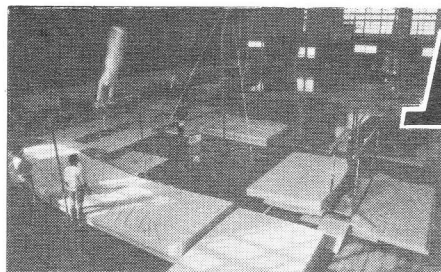
- 保健の授業で、生徒が要点を記入するための学習ノート。
- 豊富な資料と、美しい口絵カラーが好評です。
- 先生のための指導用『新・高校保健ノート』もそろっています。

講 談 社

〒112 東京都文京区音羽2-12-21 電話(東京)03-945-1111(大代表)

NON SLIP MAT

●実用新案特許出願中



ノンスリップ。マット

トーカイ ノンスリップマット事業部

本社 〒460 名古屋市中区栄二丁目14-13
 長野営業所 〒380 長野市北尾張部762-1
 静岡営業所 〒420 静岡市竜南一丁目53

100万㎡の敷地内に点在する各種スポーツ施設、宿泊研修室棟
 基礎トレーニングに、サーキットトレーニングに最適な……

コースカントリー

高萩大心苑

オリエンテーション！ 公立高・私立中学・高校多数のご利用をいただいております。

合同合宿！ 校内全クラブの合同合宿のご希望が増えております。

■体育・文化系すべての合宿に最適！

宿泊施設 104室・650名収容、研修室13室

体育施設 球技場3面、野球場1面、400mトラック

プール(25m)、体育館3棟、洋弓場、公認オリエンテーリングコース
 トリムコース、トリムパーク、テニスコート(オールウェザー6面クレア4面)

キャンプ場、キャンプファイヤー場3面

クラフト工房(陶芸、七宝焼、楽焼)

用具設備 レスリングマット1面、ウェイト用具一式、フェンシング審判機5台他

系列施設 ボウリング場(36レーン)50m公認プール

幹旋 市営野球場、体育館

高体連合同合宿

S53.12.24~30

全国高体連

レスリング部合宿

S54.3.30~4.2

東京都高体連

フェンシング部合宿



●お問合せお申込みは……

東京から150分
 ●茨城県高萩市

大心苑東京営業本部 〒100 東京都千代田区丸の内3-3-1新東京ビル623号
 ☎03(212)7908・(211)5769

学体連本部は、それぞれの事業推進のため、5つの委員会を設け、各常務理事が分担しています。

このたびその所属を次のとおり改めました。

学 体 連 委 員 会 所 属 一 覧

(53.11.24決定)

(委員会名)	(委 員 名)
総 務	○鈴木正三、岩崎正春、重田 一、坂井田逸治、川口一夫
研 究	○酒井一九、遠山喜一郎、重田 一、入倉富夫、西田猛男
編 集	○入倉富夫、酒井一九、重田 一、西田猛男、
体 育 用 品	○坂井田逸治、鈴木正三、重田 一、岩崎正春、川口一夫
体 育 施 設	○遠山喜一郎、酒井一九、重田 一、入倉富夫、西田猛男

○印委員長

編 集 後 記

明けておめでとうございます。

かつての東京オリンピック選手村の跡地を記念して設けられた青少年総合センターは、代々木の森を背景にしたすばらしい環境で、わが学体連本部もこのセンターの一角(第6棟3階)にあって、四季折々の変化とともに、そのいとなみを進めております。

昨年暮れから多用な日常会務の中で、編集を手がけた会報第3号もようやく発行のはこびとなりました。ひといきいれてふと窓外を見ると、明るい新春の陽光がまぶしく、そば近くみえるNHKの空高く数々の風が風に泳ぎ、しばし世の厳しさを忘れました。

会報の性格上、事務的な内容に限られますが、昨年11月、多大の成果を収めて終了した全国研究大会(群馬大会)の一端を紹介することができました。

学体連は、本年度最終事業となる別稿記載の「研究助成」の公募中で、1月20日の期限を前に、各都道府県からの申込みが寄せられています。本部においては、新年早々常務理事会を予定し、新年度の計画に対し、会長以下意欲的にとりくむ構えです。

おわりに、全国加盟団体のご発展と会員各位のご多幸を祈念いたします。

(事務局 小碓)